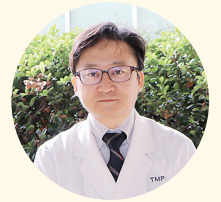


# 最新の脳血管内治療デバイス



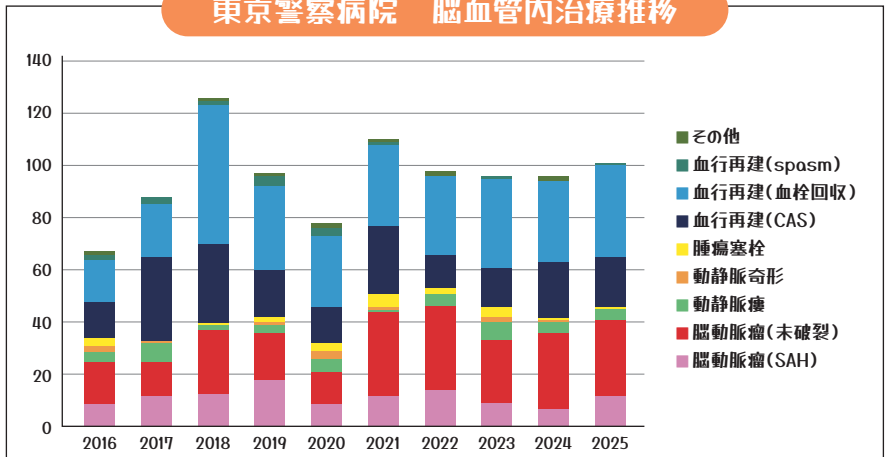
脳血管内治療科部長 **三木 一徳**

脳血管内治療科は全国でも珍しい、脳血管内治療、脳卒中診療を専門とする診療科として、脳卒中センターの中核を担っております。

## [未破裂動脈瘤の脳血管内治療]

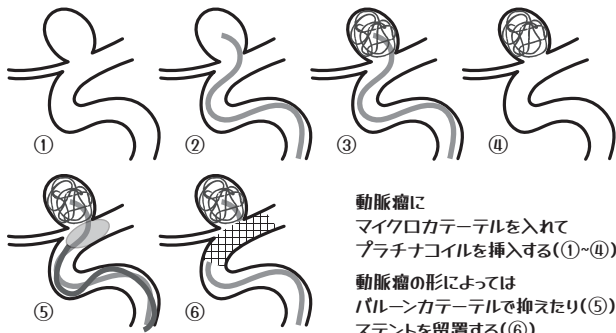
脳血管内治療は脳卒中の緊急治療ばかりでなく、未破裂動脈瘤に対する塞栓術は従来の開頭手術と比較すると低侵襲・迅速に行うことが可能な予防治療としてのカテーテル治療であり、近年は様々な新しいデバイスが開発されて適応症例が増加しています。入院期間は1週間程度で、順調に経過すれば退院後すぐに制限無く日常生活に復帰できるなど多くのメリットがあります。

## 東京警察病院 脳血管内治療推移



## 未破裂動脈瘤治療の実際と最近のトピック

### 脳動脈瘤コイル塞栓術

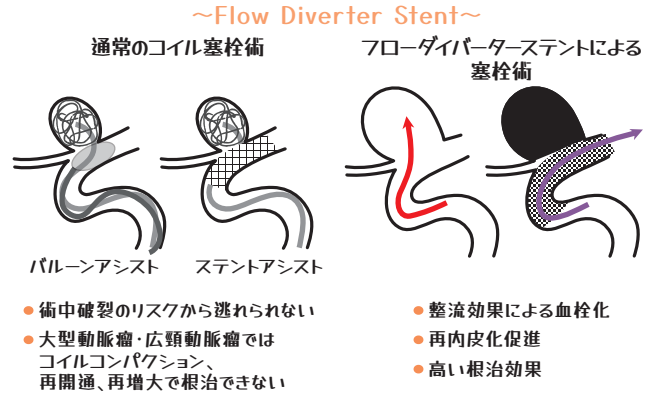


**コンセプト: 低侵襲で合併症を起こさない・安全第一**

(図1)

脳動脈瘤の脳血管内治療の基本は動脈瘤の中にプラチナコイルと呼ばれる金属の糸を詰めて血流を阻害し、血栓化させるものです(図1)が、動脈瘤内での操作を行う必要があるため、治療中ごくまれに動脈瘤破裂を誘発する可能性を伴うこと、また瘤の入口が広がったり、瘤が大型だったりした場合は、詰めたコイルに隙間が開いてしまい完全な治癒が得られない場合があることが問題点でした。

### 新しい動脈瘤塞栓術



(図2)

これらの動脈瘤に対する最新治療の一つとしてフローダイバーターステントによる塞栓術が挙げられ、特別に網目を細かく編んだ筒状の金属(フローダイバーターステント)を動脈瘤の入口の血管に留置することで、瘤の中に血流が流れ込みにくくする作用(整流効果)を利用して動脈瘤を自然血栓化させる(図2)画期的な治療法で、数年前から日本にも導入され、これまで血管内治療でも開頭手術でも治癒が難しかった大型・広頸動脈瘤の完全治癒が可能となりました。

当院では5年前よりこの治療に取り組み、現在まで全国でも有数の治療実績を誇っております。脳血管内治療領域では新しいデバイスの開発により、さらなる治療法の進歩が期待されております。我々脳血管内治療科では「安全第一」を合言葉に、テクノロジーの進歩を病気の患者さんに還元できるように治療に励んでいく所存です。